

2018 9/25

No.2075

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



約1300人の参加者が舞い踊るイベント「相模原よさこいRANBU!」が16日、JR横浜線古淵駅周辺で行われた。46チームが参加し、威勢のいい踊りで観客を魅了した。



contents

視点・点描	3
いざテレワーク鎌倉へ	
講演録	4
激動の北朝鮮情勢と日本	
慶應義塾大学准教授 磯崎 敦仁	
まつりごと点描	8
安倍政権、最終章へ	
憲法改正なおハードル	
スポーツ	10
「夢があるから強くなる」	
W杯ロシア大会を振り返って	
社会	12
成年年齢18歳へ引き下げ(下)	
成年としての裁判と婚姻	
くらし2018	14
あきれる障害者雇用の水増し	
アジアの風	16
「世界の中心で輝く」チャンスでは？	
NNAアジア経済レポート	17
神奈川景気データファイル	18
神奈川景気データファイル	19

事務局だより

◇2018年10月定例講演会
 2018年10月24日(水)
 午後1時30分～3時
 崎陽軒本店5階「マンダリン」
 講師は東京財団政策研究所主
 席研究員の柯隆(か・りゅう)
 さん
 演題は「米中貿易戦争と日本
 企業のグローバル戦略のあり
 方」

視点 点描



いざテレワーク鎌倉へ

通勤に費やす時間が全国で最も長い。社会的損失はいかばかりか。そんな思いを巡らせていると、鎌倉市が野心的な試みに着手したことを聞いた。

同市は、情報通信技術を使って職場以外の自宅や出先で働く「テレワーク」を市内で推進するため、「鎌倉テレワーク・ライフスタイル研究会」を11月に設立する。社員に月1回以上のテレワーク勤務を実践する企業を会員とし、現在、広く参加を募っている。

市内には都内通勤者が多い。鎌倉駅から東京、品川駅まで約1時間。行き帰りで約2時間。市はこの時間をテレワークで短縮し、市民のワークライフ・バランスの向上、仕事と子育て・介護を両立しやすい環境整備を目指していく。

市役所移転跡地などにワークスペース導入を検討するほか、シェアオフィス整備に補助金

を出し、市内の環境整備を図る考えだ。働き盛り世代が地元で過ごす時間を増やし、地域活動に関わる人が広がることも期待する。

ただ、テレワークに対する企業の腰はまだ重い。総務省の2017年度情報通信白書によると、301人以上の企業で導入は20.4%。労務管理の難しさや適した業務がないことが原因のようだ。

研究会でも、先進事例の研究や足かせとなつていく課題の解決策も話し合っていく予定だ。

鎌倉は海と山に恵まれ、歴史もある。近年はIT系ベンチャーの集積もみられる。7月の準備会では、松尾崇市長が出席した80社以上に「新しい21世紀のライフスタイルを実現するテレワークを始めよう」と呼びかけた。古都鎌倉の新しい試みの行方を注目したい。
(神奈川県新聞社横須賀支社報道部長 高本 雅通)

「郊外の沿線に住宅地を開発し、通勤者を都心に輸送する鉄道事業モデルは曲がり角にある」

昨年、取材した東急電鉄幹部の話に意外な印象を受けた。東京と横浜を東横、田園都市線で結ぶ同社こそ、そのモデルの最大の成功企業と思っていたからだ。
東京一極集中の弊害がそれだけ無視できない状況なのだろう。過

酷な満員電車の通勤は心身の疲れを蓄積する上、体力が弱った高齢者や障害者、妊婦にはつらい環境だ。都が「時差Biz」の旗を振ったくらいでは解消しない。

東急の幹部は、居住地近くで仕事を済ませられるよう、郊外の駅前再開発ビルにコワーキングスペースを整備する構想も明かした。本県は「神奈川県民」が多く、